

蒲生干潟の植物②7

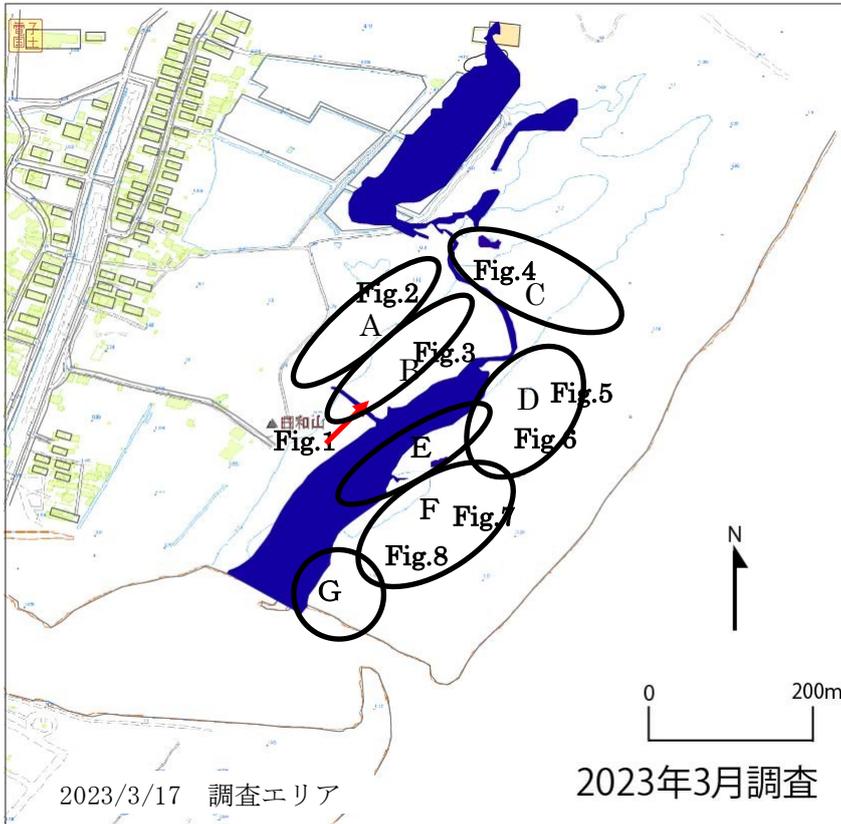


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



Fig.5 エリアDで撮影

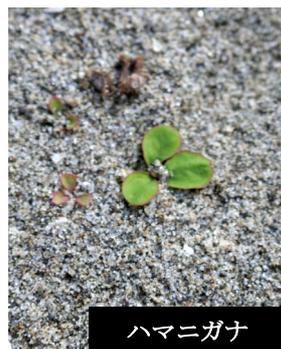


Fig.6 エリアDで撮影



Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2023年3月17日（金）9:30～11:00，天気：くもり

満潮後の調査で、干潮に向かって水が引いている最中であつた。定点観測では、枯死したハママツナが細くなり、全体的に砂地が目立つようになった（Fig.1）。エリアAのヨシは、茶色のままで新しい個体はまだ出てきていない状態であつた（Fig.2）。エリアBのハママツナは、地面に近づいて観察すると数mm程度の新しい葉が地面から出てきているのが確認できた（Fig.3）。エリアCでは、シオクグ群落の根元を見ると、新しい緑色の葉が多く個体で根元に見られた（Fig.4）。エリアDでは、ハマニンニクの新しい葉が見られた。個体数も多く、潟湖周辺一帯に点在しているのが確認できた（Fig.5）。また、枯死したハマニガナの葉の中に所々で新しい葉が出ているのが確認できた（Fig.6）。エリアFでは、ハマエンドウの葉が地面から顔を出していた。地面から出たばかりの葉が赤紫色であつた（Fig.7）。また、ハマエンドウの周辺には、ウンランの新しい葉も確認できた。1cm程度で非常に小さく、広範囲に点在して見られた（Fig.8）。これから徐々に干潟全体で緑が増えていくと思われる。

（宮崎佳彦）